

⑨ 学校規模の適正化

本市の人口は、市内中心部が増加、周辺部が減少する傾向にあります。学校園の児童・園児数も中心部では増加、周辺部では減少しています。今後、大規模校園化と小規模校園化が進んでいくことが予想されています。

教育委員会では、通学区域の適正化及び通学区域の弾力化について審議するため総社市通学区域設定審議会を立ち上げ、慎重な審議の結果、平成19年度に通学区域の「線引き」の見直しは行わない、就学指定校を変更できる基準を緩和するという答申をいただきました。これを受けて、就学指定校変更・区域外就学許可基準の改訂を行いました。現在のところ学校規模の適正化には結びついていません。

幼稚園についても、平成20年度に行った幼児教育等研究委員会で、現時点においては小規模園の統廃合は考えないという結論を得ており、現在、統廃合等は検討していませんが、子どもの集団での育ちを保障する観点から、現状には課題があるといえます。

ところで、小規模校園においては、子ども同士の切磋琢磨の機会が減少すること、学校園や地域において一定規模の集団を前提とした教育活動やその他の活動（学校行事や地域における伝統行事等）が成立しにくくなることなどの課題が指摘されています。一方、大規模校園においては、きめ細かい教育が行き届きにくいこと、プレハブ教室や校舎の増築が必要になることなどの課題があります。

そこで、今後、本市における学校規模適正化について具体的に検討する必要があります。

表 13 学校別人数・学級数の推移（小・中学校）

（単位：人、学級）

小中学校		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
総社小【大】	人数	814	804	820	793	767	774	753	772	758	785
	学級数	27	28	29	27	26	26	26	27	26	27
総社中央小	人数	367	378	394	414	407	411	413	414	420	416
	学級数	15	16	15	16	16	16	16	16	17	16
総社北小	人数	257	268	271	281	274	266	256	244	232	209
	学級数	9	11	11	13	14	13	12	10	10	9
常盤小【大】	人数	640	674	701	742	746	793	813	817	830	850
	学級数	22	23	24	26	28	29	29	28	29	29
総社東小	人数	252	259	242	267	259	269	262	255	261	233
	学級数	11	12	11	13	12	13	12	11	12	10
阿曾小	人数	142	134	135	132	135	133	129	128	119	114
	学級数	7	8	8	8	8	8	8	8	8	8
池田小【小】	人数	67	69	71	65	63	59	56	56	53	46
	学級数	6	6	6	6	6	6	5	5	5	5
秦小	人数	105	97	90	91	88	90	92	90	82	80
	学級数	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7
神在小	人数	178	182	174	171	165	158	166	155	157	146
	学級数	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
総社西小	人数	245	232	225	194	192	179	177	177	171	174
	学級数	10	10	9	8	9	8	8	8	8	8
新本小	人数	94	85	83	81	74	70	63	64	56	58
	学級数	7	7	7	8	8	7	7	7	7	8
昭和小	人数	127	118	103	100	96	96	92	90	84	77
	学級数	8	8	7	7	8	8	8	8	8	8
維新小【小】	人数	52	55	55	53	44	39	35	29	23	21
	学級数	5	5	5	5	4	4	4	4	4	3
山手小	人数	298	319	312	306	308	302	305	298	298	305
	学級数	13	13	14	14	14	14	15	15	15	15
清音小	人数	324	321	329	332	333	306	296	302	296	284
	学級数	14	14	14	15	16	16	15	15	15	15
総社東中【大】	人数	762	764	776	784	816	809	842	844	838	814
	学級数	23	23	23	23	25	25	26	26	26	25
総社西中【大】	人数	730	716	695	673	723	778	848	874	918	911
	学級数	21	21	22	21	24	25	27	28	29	29
総社中	人数	366	338	347	315	322	308	291	269	259	251
	学級数	13	12	11	10	11	11	11	11	11	10
昭和中	人数	100	96	104	100	100	91	83	80	81	80
	学級数	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4

（注）次ページの（注）1～4参照

（幼稚園は次ページ）

表 13-1 園別人数・学級数の推移（幼稚園）
（単位：人、学級）

幼稚園		H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25
総社幼	人数	144	136	115	124	120	144	150
	学級数	6	6	6	6	6	6	6
井尻野幼	人数	100	95	96	85	88	97	98
	学級数	5	5	5	4	5	4	5
総社南幼	人数	122	113	104	100	98	132	126
	学級数	6	6	6	5	5	6	6
総社北幼	人数	73	66	65	66	66	55	47
	学級数	3	3	3	3	3	3	3
常盤幼【大】	人数	201	220	195	201	202	200	203
	学級数	8	9	9	9	9	8	8
三須幼	人数	43	35	37	29	25	28	25
	学級数	3	3	3	3	3	3	3
服部幼	人数	42	40	39	35	37	38	38
	学級数	3	3	3	3	3	3	3
阿曾幼	人数	27	26	22	33	26	29	25
	学級数	3	3	2	3	3	3	3
池田幼【小】	人数	23	22	19	14	11	14	12
	学級数	2	2	2	2	2	2	2
秦幼	人数	20	26	29	29	24	19	14
	学級数	2	3	3	3	3	2	2
神在幼	人数	52	39	35	33	30	43	39
	学級数	3	3	3	3	3	3	3
久代幼	人数	38	40	39	47	42	45	39
	学級数	3	3	3	3	3	3	3
山田幼【小】	人数	11	8	8	7	6	5	5
	学級数	2	2	2	2	2	2	2
新本幼【小】	人数	18	15	17	14	13	14	15
	学級数	2	2	2	2	2	2	2
昭和幼	人数	31	37	38	35	31	18	18
	学級数	3	3	3	3	3	2	2
維新幼【小】	人数	20	13	9	6	11	9	9
	学級数	3	2	2	2	2	2	2
山手幼	人数	61	72	69	70	60	79	85
	学級数	3	4	3	3	3	3	4
清音幼	人数	57	80	72	71	72	77	76
	学級数	4	6	6	6	6	6	6

(注) 1. 平成22年7月20日現在調査（クラス数は弾力化（35人学級）適用前）
 2. 小・中学校の平成23～28年度、幼稚園の平成23～25年度は推計
 （小・中学校の学級数に含まれる特別支援学級数は、平成23年度以降は、平成23年度の数で固定）
 3. 平成23年度以降は、小学校の第1学年のみ35人学級として推計
 4. 【大】は大規模校、【小】は小規模校

⑩ 小中一貫教育

市内の小学校と中学校では、研究授業の相互参観などの学習指導、合同会議や合同補導等の生徒指導などにおいて連携を深めながら教育活動を行っています。

今後は、日常の連携だけではなく、小中学校の教職員が一体となった新しい学校運営の組織や指導方法により、義務教育9年間を通して子どもたちの発達段階に応じたきめ細かな学習指導、生徒指導を行う「小中一貫教育」(※18)の推進を検討する必要があります。

小中一貫教育の推進により、基礎・基本の定着と学力向上、個性の伸長、不登校や問題行動等の減少、規範意識の高揚、部活動の活性化などの効果が期待されます。

※18 小中一貫教育には次の3種類がある。

- **連携型小中一貫教育**…中学校区単位で、小・中学校の段差解消を目指し、9年間の育ちの系統化を図る教育のことで、教職員や児童生徒の交流や行事等の連携が進められる
- **施設分離型小中一貫教育**…校舎は別々であるが、学校運営や教育内容などのソフト面を一体化した学校のことで、9年間の一貫性のある系統的なカリキュラムに基づく実践が行われるとともに、小・中学校の学校組織が一体化している
- **施設一体型小中一貫教育**…校舎施設のハード面も、学校運営や教育内容のソフト面も一体化を図っている学校のことで、同一敷地内の校舎で9学年すべての児童生徒が生活し、9年間の一貫性のある系統的なカリキュラムに基づく実践が行われるとともに、小・中学校の学校組織が一体化している